



輝かしい新年へ――

- 1**月号の主な掲載記事
- 篔岳山から望む黄金に輝く雲海 ..... 表紙
  - 新年のご挨拶 ..... P. 2
  - 特集「おいしいだけじゃない わくやの学校給食」 ..... P. 4

# この町の明るい未来を

## 実現するための町づくり

明けましておめでとうございます。

町民の皆さまにはお健やかで輝かしい新春をお迎えのことと、お喜び申し上げます。

また、日頃より町政運営に対し、温かいご支援、ご協力を賜りまして、心からお礼を申し上げます。

昨年も新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るい、涌谷町内においても感染者が発生する事態となりました。しかし、涌谷町内の医療従事者の皆さまが一丸となってワクチン接種にご協力をいただき、町民の皆さまにおかれましても積極的にワクチン接種をお受けいただきました。結果、12月8日現在で2回目のワクチン接種率は約89%となり、感染拡大の大波を乗り越えることができました。これからも新型コロナウイルス感染症の完全終息に向けて、ワクチンの3回目の接種を予定しておりますが、感染症対策には引き続き高い緊張感を持って感染拡大防止に努めてまいります。

令和3年度の町の予算編成は、平成31年1月に発令さ

れた財政非常事態宣言を受け、町民の皆さまのご理解のもと財政再建計画を着実に実行するための予算編成でありました。令和4年度の予算編成におきましても、将来を生きる子どもたちに大きな負担を残さぬように、また少しでも町民の皆さまの笑顔を多くすることができるよう懸命の努力をさせていただきますので、引き続きご理解をお願い申し上げます。

また、皆さまにご心配をいただいております病院事業におきましては、医療現場や病院関係者全員の日々の努力に加えて、医療、財務、行政の各分野における外部有識者による「町財政及び病院事業に係る有識者会議」でのご意見を参考に、町民の皆さまが安心して気軽にお立ち寄りいただけるような病院を実現してまいります。

現在、涌谷町では第五次総合計画の後期計画を策定中



であります。前期計画の成果などを十分に検証し財政再建計画を基軸として、確かな町の未来に続くための計画を策定してまいります。策定にあたりましては、「わくや交流推進」・「定住・移住促進」・「協働まちづくりの進展」の3つの町づくりシンボルプロジェクトを柱にして、日本初の産金の地・涌谷にちなんだ高機能性玄米食専用米「金のいぶき」の増産をはじめとした「涌谷ブランド」の構築や、日本遺産に認定された宮城県涌谷町、南三陸町、気仙沼市、岩手県陸前高田市、平泉町の2市3町で構成する金にまつわるストーリー「みちのくGO LD浪漫」などによる観光産業の振興、さらには、わくや天平の湯の隣に進出された「子どもの丘保育所」の新設などを活かした若い世帯への定住支援や子育て支援のなお一層の充実を図り、また現在4人が都市部から移住して、それぞれの分野で町おこしに活躍されている「地域おこし協力隊」による協働のまちづくりなどを引き続き推進してまいります。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で2カ年にわたり中止をせざるを得なかった「わくや桜まつり」など、町民の皆さまの笑顔の元となる行事についても、国内や県内の新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みながら再開させていくことで、町内外の人達との人的交流を

促し、経済や産業活動の活性化を図り、停滞する現状からの脱却を図ってまいります。

涌谷町は今年、5カ年の財政再建計画実施期間中の中で4年目を迎えることとなります。真価を問われる一年となるため、これまで以上に直面する一つ一つの課題に真摯に全力で取り組み、少しでも涌谷町に明るさを取り戻すように努め、未来に向かって前進して行きたいと考えておりますので、町民の皆さまにはなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、今年こそが町民の皆さまにとりまして、希望あふれるすばらしい年になりますように、心からのご祈念を申し上げます。



涌谷町長 遠藤 釈雄



～健康的で文化的な成長を育む～

みんな大好き！

# おいしいだけじゃない わくやの学校給食

昭和42年から始まった涌谷町の学校給食センターによる完全給食。

単に食事の提供だけではなく、給食を教材とした健全な食生活・食習慣の学習や食材・生産者に感謝する精神の醸成、地域の伝統的な食文化への理解深耕などを実践する涌谷町の学校給食を紹介します。



## 《写真解説》

①③11月24日「いい和食の日」にちなんだ「和食給食」。大量の鰹節と昆布でとった黄金の出汁を味わう本格すまし汁②涌谷町産「金のいぶき」と宮城県産「銀鮭」で地産地消を味わう「金・銀給食」④「金のいぶき」の給食を教材として食育を実践



涌谷町の学校給食は、涌谷公民館北側に平成13年に整備された学校給食センターで、町内すべての小・中学校の児童生徒・教職員用に年間約180日分を調理し、提供しています。

涌谷町の学校給食の大きな特徴の一つに、地産地消率の高さがあります。米飯はすべて涌谷町産の環境保全米が使用されています。また、学校給食全体で令和3年度(6月・11月)は平均で48%(全国の目標値は30%以上)で、野菜に限れば食育月間の11月は地産地消率が75%を超え、4月から11月まで使用した野菜は6860kgに及びます。涌谷町の主要産業の農業が豊かな学校給食を支えています。

令和3年度は、涌谷第一小学校を中心に、月2回ほど栄養教諭が、その日提供する給食を教材として、涌谷町の特産食材の紹介や日本の伝統食・行事食、理想的な咀嚼回数などをテーマとした食育実践しています。11月の食育月間には、涌谷町のブランド米「金のいぶき」と宮城県のブランド魚「銀鮭」を使った給食や「いい和食の日」にちなんだ和食の給食を提供しました。



## 安定・安全・安心

### 学校給食を支える地元の皆さん

毎日の学校給食を安定して子どもたちに提供できるように、安全・安心に細心の注意を払いながら食材の栽培や仕入れ・加工にひたむきに向き合う事業者の皆さんを紹介します。



学校給食で使われる地場産野菜を生産し納入する「わくや産直センター黄金の郷」。産直センターの方針として、安全・安心を第一に、病気や害虫を駆除するための消毒薬は極力使用しない減農薬栽培を心がけています。

産直会員の生産者の藤田さんは、堆肥でほ場の地力をつけさせ、追肥もしっかりと行う基本に忠実で丁寧な栽培をしています。秋から冬にかけては、ねぎや白菜、大根などを納入しています。藤田さんは給食への納入にあたり、「中学校に通う孫が、『今日の給食、おいしかったよ』と学校から帰ってきて話してくれるのが、野菜づくりの励みになっています」と嬉しそうに話します。

令和3年10月で創業100年を迎えた涌谷町字本町にある砂金精肉店。昭和42年に涌谷町学校給食センターが稼働して以来、地元精肉店として肉類を納入し続けています。

また、取り扱う肉にもこだわります。豚肉は健康な豚であることを証明するSPFポークを、鶏肉は涌谷町への進出が決定している株式会社ウエルファムフーズの銘柄鶏「森林どり」(宮城県産)を使用します。

その食の安全性への配慮や品質の高さは、栄養教諭や調理員からも信頼され、口コミで広がり、美里町や大崎市の小・中学校にも食肉を納入しています。



### いただきます。ごちそうさまでした。

豊かな食は、豊かな人づくりの基礎の一つ。涌谷町の学校給食は、これからも郷土を支える人づくりを担ってまいります。



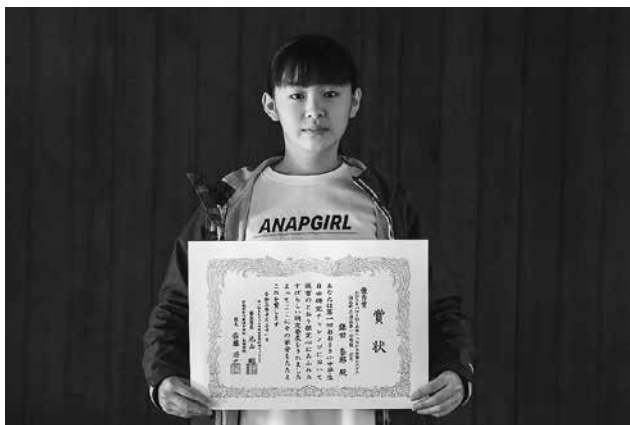




## 宮城県“みやぎの現場”訪問事業 村井嘉浩知事が涌谷町の現場を訪問

12月1日(水)に、宮城県知事の村井嘉浩知事が宮城県内各地にある先進的な取り組みを行う企業を視察するみやぎの現場訪問事業が実施され、涌谷町を訪問されました。

涌谷町の訪問先企業は、令和3年3月に涌谷町字小谷地に小ネギ・青ネギ・白ネギなどのカット工場を新設させた有限会社氏家農場でした。氏家農場が取り組む六次産業や雇用の創出、先進的な加工設備が整った工場などについて懇談し視察されていきました。



## 第1回おおさき小中学生自由研究チャレンジ 鎌田奈那さんが優秀賞を受賞

涌谷第一小学校6年生の鎌田奈那さんが、第1回おおさき小中学生自由研究チャレンジにおいて、今年の夏休みに取り組んだ自由研究「おひさまパワー(2)～未来へつながる発電システム」で優秀賞を受賞しました。

自宅の太陽光発電がどのくらい発電しているのかということに疑問を持ち、調べてみたいと思ったことがきっかけとなり、小学校生活最後の夏休みの挑戦として初めて自由研究に取り組み、今回の受賞となりました。



## コロナ禍での災害発生を想定して 涌谷町総合防災訓練を実施しました

11月27日(土)に、涌谷第一小学校で、コロナ禍での水害を想定した「令和3年度涌谷町総合防災訓練」を実施しました。

涌谷町役場で災害対策本部(訓練)を設置したことを皮切りに、防災無線とエリアメールを配信し、涌谷第一小学校を水害時の避難所としている4区・6区・7区・八雲区の住民の皆さんを対象にした避難訓練を実施しました。

避難所の受付では、防護服を着た職員による体温測定や飛沫飛散防止シートを設置するなど、コロナ禍での対応を確認しました。

その他に、遠田消防署によるコロナ禍に対応した心肺蘇生法の講習やNPO法人防災士会みやぎの吉木木防災士と高橋防災士による水害時における涌谷町での避難行動や避難所開設について講話が行われました。

その後、災害伝言ダイヤル「171」や災害対応自動販売機の体験、心肺蘇生法と各避難所に配備されている段ボールベッド・目隠しパーテーションの組み立ての実技講習が行われ、参加者一同、災害への心構えを高めました。

涌谷町では、来年度以降も各地域を持ち回りで総合防災訓練を実施し、防災力の向上を図ってまいります。





## 月将館小学校を地域ぐるみで支援 月将館小学校応援隊が活躍中

月将館小学校において、東地区の老人クラブや民生委員、行政区長、有志の皆さん約100人が携わる月将館小学校応援隊が活躍しています。

当初は、コロナ禍における校内の消毒作業から始まった活動ですが、現在では、学校敷地内の植木の剪定や家庭科の学習では児童のミシンの操作、調理実習の補助、図工ではノコギリの使い方の学習補助などを行っています。応援隊の皆さんが持つ技術に応じて支援しています。



## 第20回みやぎふるさとCM大賞 県制150周年賞を受賞しました

12月4日(土)に、第20回みやぎふるさとCM大賞の審査会が開かれ、涌谷町産ブランド米「金のいぶき」をテーマにした「だけじゃないGoldenRice!!」を出品し、県制150周年賞を受賞しました。「金のいぶき」の栽培に取り組む籠岳白山小学校の児童の皆さんと涌谷町地域おこし協力隊のクリス隊員が出演し、魅力を伝えています。審査会の様子は、1月3日(月)16時から東日本放送で放送されます。また、CM作品は、涌谷町のYouTubeチャンネルからも視聴できます。



## 宝くじ社会貢献広報事業 9の1区自治会が助成を受けました

9の1区自治会が、地域コミュニティの継続的かつ円滑な活動を行うため、一般財団法人自治総合センター「宝くじ社会貢献広報事業」を活用し備品を購入しました。

今回購入した備品などで、集会所「やすらぎ荘」の環境を整備することができました。地域のおまつりなどのイベントでも多方面で活用することで、今後の若い世代との交流を促進させ、より一層充実した地域コミュニティの活動が期待されます。



## 芸術に彩られた涌谷の秋 第45回町民文化祭が開催されました

11月2日(火)3日(水)の2日間に、涌谷公民館において2年ぶりの町民文化祭が開催されました。

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策として、展示のみの開催となりましたが、会場内には、所狭しと涌谷町内の文化芸術団体・個人のすばらしい作品の数々が展示され、会場を彩りました。今年度初めて、古式獅子舞保存会の獅子頭や生田流箏曲練園会の琴の展示もあり、訪れた人々は興味深そうに見入っていました。